

主題	完全給食の廃止 「私にだってまだできる！！」
副題	～私たちのご飯・味噌汁は、私たちが作ります～
自立支援 残存機能の維持	

研究期間	10ヶ月	事業所	ウエルガーデン伊興園
発表者：秋山 美穂子 ・ 塚越 歩			アドバイザー：杉本 浩司
共同研究者：山下 好子・本多 菜摘・中道 聡子・岩下 雅美・高尾 佳朗・鹿 有佳乃			

電 話	03-5691-9501	メール	ikoen-day@welgarden.or.jp
FAX	03-5838-1325	URL	http://welgarden.or.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人ウエルガーデンが運営する認知症対応型通所介護。併設事業に、特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業所、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターがある。施設全体で自立支援に取り組んでいる。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

当施設では、開設当時から約13年間ご利用者に配膳されたお食事を提供して召し上がって頂いていた。それは、ご利用者自身の「自分ではもうできない」という思い込みや、職員が「危険」などと思ってしまうからではないか。これは、介護保険で提供されるサービスが、ご利用者の可能性を制限し、生活を止めてしまっている事で自立支援を大きく阻んでしまっていると考えた。

研究前は、来園されてから昼食後までの半日を、トイレや入浴以外で自席から動かず過ごされているご利用者が多かった。せっかくの広いスペースで小さいグループでの動かない活動となっていて、残存機能を活用しない状況で活発な活動になっていないことが自立支援への課題となっていた。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

残存機能を維持し、ご利用者やご家族や職員が出来ないと思い込んでいたADLを引き出すことが自立支援に繋がることを目的・目標とした。ご自宅でも簡単な調理が出来るようになる事や、デイサービスでの役割を見つける事での社会参加、楽しみを見つけ他者から「美味しい」と言ってもらえた時の喜びを感じてもらう。それがご利用者自身への喜びや励みとなり、生活の質が向上すると考え、ご利用者自身に昼食で召し上がるご飯、粥、味噌汁を作ってもらう事に取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

認知症対応型通所介護のご利用者 25 名中
気管切開者等を除いた 23 名を対象に研究を
行った。

職員からご利用者への声掛けによる参加
の促しと物品の準備。

平成 24 年 10 月より昼食を完全配膳形式
よりビュッフェスタイルに変更。平成 25 年
4 月より主食と味噌汁を手作りに変更し、ご
利用者を主とし作って頂き現在も継続中。

その日の食事に係る職員は 2 人配置し、出
来るだけ多くのご利用者に参加してもらい
役割を分担する。

一般型通所介護も同じフロアにて活動し
ている為、同様に参加を促しご利用者に参加
して頂く。

4 月の開始に向けて、IHヒーターとそれ
に対応する鍋、炊飯器等の購入をした。また、
施設内での園芸にも取り組み野菜の栽培に
も力を入れた。

ご利用者の役割分担として、調理・栽培・
買い物・味見を設定。

ご夫婦で利用されているA夫妻他数名の
ご利用者の日頃の活動や様子、変化などの研
究の経過を発表する。

《4. 取り組みの結果と考察》

調理に参加し美味しいといわれる事で、自信
に繋がりご利用者に笑顔が多く見られるよ
うになった。出来ないと思っていたことが出
来ると知り、自ら参加してくれるご利用者
が増えた。周囲のご利用者の刺激を受け、調理
だけでなく園芸という分野で男性に役割が
でき、目的を持って施設に通所してくれるよ
うになった。園芸や買い物などでの外出も増
え、行動範囲の拡大や社会との交流の場がで
き、活動量が増えることにより歩行距離や水
分摂取量も増えた。このことにより、ご利用
者の残存機能の維持が図れ、可能性や希望を
持てるようになった。

《5. まとめ、結論》

ご利用者にはたくさんの希望や役割があ
る。私たち職員がそれに気づき、今まで引き
出せなかった可能性を見つける事が出来た。
ご利用者の残存機能が維持され、介護保険の
本来の目的である自立支援に繋げることが
私たちの役割である。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うに当たり、ご本人（御
家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外
では使用しないこと、それにより不利益を被
ることはない事を説明し、回答をもって同意
を得たこととした。

《8. 提案と発信》

私たちが支援と思っていたことが、実はご利用
者の可能性や希望を損なわせていたのか
もしれない。ご利用者の生活の質の向上を心
掛けた支援やサービス提供をするために、現
場にいる私たちはもう一度、介護保険の本来
の意義である自立支援を、皆で考えてみる必
要があるのではないだろうか。

【メモ欄】